

2011年6月10日

中国からの訪日旅行の現況について

～上海世界観光資源博覧会の出展を通して～

上海産業情報センター

横江 隆弘

東北地区大地震の発生後、中国のみならず世界各国からの訪日旅行客が減ってしまっていることは既知の事実ですが、震災後2ヶ月余り経過してやっと僅かですが、復活の兆しがみえてきました。

上海においても在上海日本総領事館、日本国際観光振興機構(JNTO)を中心に、上海市旅遊局等に日本の最新情報を幅広く、そして正確に発信しながら、多くの地域では災害の影響がなく安心して旅行を楽しんでいただけることをアピールしようとしております。

今回はそのあたりの状況を、5月に出展参加した上海世界観光資源博覧会(WTF)の様子を踏まえて報告します。

1 最近の訪日旅行の状況

JNTOが発表している推計値によると、今年3月に世界中から日本を訪れた外国人客数は、約35万人であり、前年同月比マイナス50.3%となっています。続く4月は約29万6千人であり、前年同月比マイナス62.5%となりました。1カ月の訪日外国人客数が30万人を割ったのは、新型肺炎SARSの影響が大きかった2003年5月以来のことです。

中国からの訪日客数に関しては、3月が前年同月比マイナス49.3%の62,500人、4月は前年同月比マイナス49.5%の76,200人となっており、毎月の訪日客が一番多かった韓国を抜き、トップになっています。また、主要国からの訪日客数の減少の割合は、4月に台湾が67.4%減、アメリカが55.4%減、香港が87.6%減、タイが78.3%減でした。

訪日ツアーでは最も人気のあるツアーの一つである「桜の花見ツアー」が企画されていた時期であり、日本各地域への影響は計り知れないほどであったことが伺えます。ビザの発行も団体ツアー関係は全てキャンセルされ、個人発給ビザが業務上やむを得ない出張のものだけが残っているという状況が、これらのことを裏付けています。

5月になってから、香港の旅行社が九州あるいは関西方面向けのツアーを開始してから、わずかですが、中国からの団体ツアーが再開されつつあるのは、日本の報道のとおりです。

正常化に向けて動きだしつつありますが、中国のある旅行社は、放射能漏れ事故を未だ懸念して東京周辺を避けたコースを設定したり、北海道1週間のツアーを通常価格のほぼ半額の約5千元(日本円で約6万円相当)で販売したりしているのが実情です。他社

の別のツアーも震災前の半値近い水準で売られており、訪日旅行の絶好の機会とみて関心を寄せている中国人も少なくないようです。

しかし、復興に際してのある程度の期間はこの極端なディスカウントもやむを得ないかもしれませんが、長く続けば日本のホテル・旅館、観光関係者に結局大きな負担を強いることになり、この状況が長く続くことは訪日客が増えても、必ずしも好ましい状況とはいえないかもしれません。

2 上海世界観光資源博覧会（WTF）に出展参加して

上海世界観光資源博覧会（WTF）は、5月12日から15日までの4日間にわたり、出展面積は12,000㎡で、45カ国から500あまりの団体が出展しました。博覧会期間中、21,000名の参観者が来場し、そのうちの6,000名は旅行関係者であったそうです。

また、会場内販売及び団体旅行購入で合計960人分の優待商品の販売が行われ、総売上金額は750万元に達し、例年より約45%増加しました。

愛知県は、岐阜県及び長野県と協力して出展し、会期前半には、中国華東地域を中心とした各地域の旅行社の方々に中部地域の旅行ツアー造成に向けたPRを行いました。

また、会期後半は一般開放となっていたため、一般の中国人の方々に直接、東北大震災の状況及び放射能漏れの影響のないこと、また愛知県の観光の魅力をモリゾー・キッコロとともに伝えました。モリゾー・キッコロの登場には、「愛知万博のキャラクターだ。」と反応される方も少なくなく、会場を大いに盛り上げることができました。



3 マッチングした旅行社の直接の声

会期中にお会いした旅行社の方々からお聞きした話をいくつかお伝えします。

- 蘇州海外旅遊有限公司 朱鳳興 商務旅行部部長
蘇州和平国際旅行社有限公司 王菊峰 アウトバウンド部经理
 - ・ 6月28日から7月3日の関西イン、中部アウトのコースを市場に出すつもりです。顧客が30人以上集まらないと、赤字になりますが、リスクを承知したうえで実施しています。
 - ・ 九州+大阪、5日間のコースを実施しました。32名集まりましたが、団体ビザが取ることができなかったので、全員個人ビザで対応しました。
- 浙江省旅行社協会 裘安娜 市場部部長助理

浙旅控股股份有限公司 程可 アウトバウンド計画調整中心総経理

- ・大震災や放射性物質の問題については、旅行社がいくら承知しても、それが顧客に伝わらないとだめだと思います。
- ・完全に回復するまではかなりの時間を要すると予想していますが、できるだけ努力はやってみたいと思います。

○ 安徽中国青年旅行社有限責任公司 王謙 アウトバウンド部経理

韋仁海 欧米豪シン商務部主管

- ・初めて日本を訪れる顧客は殆ど東京と大阪を行きたがる傾向が強いです。中部は2回目や3回目の顧客が狙い目だと思います。
- ・素晴らしい観光地がいっぱいありますが、好みがあるだけに、顧客の選定が難しい。しかし、ツアーの企画と顧客のゾーンがうまく合っていれば、大きな効果が期待できると思います。
- ・北海道と静岡はそれぞれ映画のロケ地として利用されたことがあるので、最近の人気目的地となっています。
- ・現状では、九州周辺を目的地としたツアーは中部と東部より集客がしやすいと思います。

○ 上海錦江旅遊有限公司 高楓 アウトバウンド旅遊中心日韓部部長

王珏 アウトバウンド旅遊中心日韓部主管

- ・最近では中部コースを考えています。30から40代の顧客を募集対象にしたいと思います。時期は夏休み前後で、温泉はコース内に必須です。
- ・まだ、中国では値段の高いコースが売れないのが実情です。大震災や放射性物質などの問題が完全に解決していないから、安ければ行ってもいいが、高かったら参加しないという心理が強く作用している結果だと思います。

○ 天津市金龍国際旅行社 常健 アウトバウンド部経理

- ・天津と北京の記者を集めて日本に観光してもらい、記者たちの発信力で中国国民が対日旅行の復興を促すことを計画中です。
- ・数回行う計画ですが、1回目は、神戸、京都、大阪、奈良を考えています。中国ー日本間の移動手段は船便を利用します。
- ・中部エリアに訪問することも考えられます。この場合は、帰りは中部国際空港を利用します。
- ・1回目のときに中部エリアに来られない場合は、2回目に組むことも想定されます。

最近、訪日ツアーが動き出したとはいえ、上記の旅行社の方の言葉にもあるように、放射能漏れ事故に対する警戒は依然として払拭はされていません。今後も粘り強く継続的にPRし続けていくことが大切と思われます。実際に現場で直接話を聞いてみると、日本への興味・関心が高いことがよくわかります。これからも早く復活できるように地元地域をPRしていきたいと思います。

上海産業情報センターでは、今後もこれらの状況に注視していきたいと考えております。